

専門機関との連携（２）

専門機関との連携の内容は、学校側から見ると次のように整理されます。

- 研修会等で知識やスキルなどの学習をする
- 全体的、一般的な状況についての情報提供やアドバイスを得る
- 個別の事例についての情報提供やアドバイスを得る
- 学校と専門機関との行動連携を図る
- 学校、家庭（保護者・本人）と専門機関との行動連携を図る



専門機関と連携を図る

専門機関との連携は、複雑化、困難化する学校不適応児童生徒の理解や対応において極めて有効です。とくに学校と医療機関との連携は、近年、そのニーズが高まっています。

しかし実際は、プライバシー上の問題もあり、家庭との連携（了解）なしには連携が困難な場合もあります。学校、家庭と専門機関との連携が改めて重要になっているといえましょう。

専門機関との連携を図るポイント

連携を効果的、機能的に図っていくためには、公的機関であり、さまざまな社会的資源とつながりやすい学校が連携の核となって、積極的に専門機関につながっていくことが必要です。

教育相談担当者や養護教諭といった人たちが、コーディネーターとしてそうした役割を果たすことがキーポイントになります。

どの専門機関に相談したらいいのか分からないことも多いでしょう。こうしたとき、まず、総合教育センターや教育委員会に相談し事例に適する専門機関を紹介してもらったり情報を提供してもらったりすることが有効です。迷っているよりも、声をかけてみるのが連携の第一歩です。

問題が複雑化する前に、できれば初期の段階で相談することです。複雑化した事例は、その分、解決も難しくなります。

専門機関との連携を図るポイント

学校の連携の目的は教育力の向上です。まず、学校の教育力を整理しましょう。

連携によってどの領域をどのように向上させたいか方針を立て、それによってどのような効果が得られるかをつかむ必要があります。

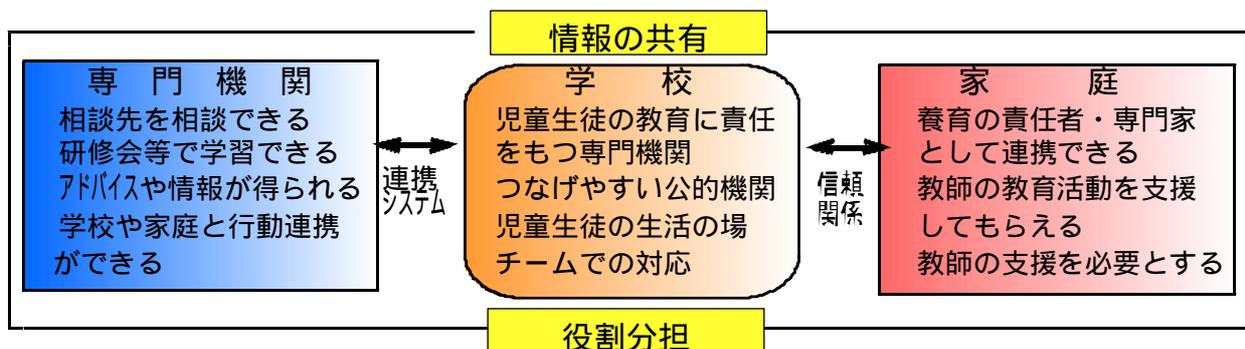
方針が立ったら、どこと連携できるか具体的に考えます。

専門機関との連携における課題

専門機関の所在地や連絡方法特徴等の諸情報が書かれてあるネットワークマップの作成。

電話議やメール等の通信手段を用い情報の交換や意見交流ができるような連携システムづくり。

学校医を介して他の医療機関等につなげられるようなネットワークシステムづくり。



【参考文献】 岩手県立総合教育センター教育相談室『学校不適応児童生徒に対する指導・援助に関する研究』, 2007